

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部

氏 名 江 成 幸

活動テーマ	「多文化共生」を基軸とした持続的コミュニティ構築の支援活動 ～ “笹川モデル” の実現に向けて～
実施期間	平成 24 年 4 月 2 日 ～ 平成 25 年 3 月 29 日
活動内容	<p>I. 四日市市笹川地区の「多文化共生」調査結果分析</p> <p>(1) 具体的な活動実施内容 日系ブラジル人が集住する四日市市笹川地区で平成 23 年度に実施した住民調査をもとに、平成 24 年度は、日本人住民とブラジル人住民双方の意識を検討した。地域住民と行政にフィードバックするため、『四日市市笹川地区における「多文化共生」に向けた課題～日本人・外国人住民アンケート調査報告書～』（三重大学人文学部多文化共存研究センター、2013 年 3 月）を作成した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり） 地域の状況を客観的に示すことで、地域住民間で問題共有が促進されることが期待される。行政は、四日市市多文化共生推進プランの改訂に向けた資料に活用する。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 四日市市は多文化共生推進に向けて担当職員の拡充を行っており、持続的な調査・研究に対して協力を得ることができた。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり 共通教育「PBLセミナー（多文化共生について考える）」、専門科目「現代社会論B」等で、地域の国際化に関わるテーマを扱う際に、調査結果を教材とした。また、分析の一部を人文学部文化学科紀要に投稿した。</p> <p>II. 外国人児童生徒への日本の古典読み聞かせ活動</p> <p>(1) 具体的な活動実施内容 四日市市で実施に至らず、以前から連携のある松阪市教育委員会と調整を行い、外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」で、「かぐやひめ」と「かさじぞう」の紙芝居を紹介した。「いっぽ教室」は日本語の初期指導を目的としており、文字や文法の勉強が中心になっている。まとまった長さの日本語に触れる機会が少ないことが課題であり、今回は日本文化の紹介をまじえて、子どもたちが日本の昔話を楽しむ機会となった。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり） 読み聞かせでは、教室のボランティア指導員や通訳スタッフの協力も得た。教室の関係者からは高い関心が寄せられ、予備知識となる教材を用いるアイデアなどが提案された。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 事前準備から実施後の反省会まで、松阪市教育委員会と緊密に連絡を取った。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり 日本文学専攻の教員が、物語の選定と子どもたちへの解説に取り組み、専門知識にもとづいた、しかも分かりやすい内容で実施することができた。</p>